

## 職員による自己評価

**A環境面**

基準の倍の面積を有すると共に、スペース的には問題ないが傾斜の強い階段があることが課題。窓の補強や角のクッション等は施したが、不十分。

**B児童への支援内容**

安心と安らぎ空間の提供を心掛けており、その上で個人の特性に合わせた、きめ細やかな支援を目指しており、外出も含めた多様なプログラムに取り組んでいるが更に検討したい。

**C関係機関との連携**

医療や各種支援機関、学校などとの連携は一部で実施しているが、まだ不十分。

**D保護者への説明責任・信頼関係**

ご自宅送り時等の機会を利用して丁寧な説明を心掛けている。職員のスキルアップを通じて信頼関係を重ねていく必要性を感じる。

**E非常対応**

急傾斜地防災マニュアルと消防計画を策定済であるが防災訓練が不十分。

## 保護者による評価

**A環境面**

活動スペース広さなどは高評価、手すりやスロープなどバリアフリーは通常。

**B児童への支援内容**

職員の専門性は良し、保護者のニーズ反映や課題を客観的に反映した個別支援計画の作成については高評価。活動プログラムの固定化はどちらとも言えないが、更に運動の充実を期待。他との交流は予定が明確であった方が良い。

**C事業所からの情報発信**

支援の内容や利用者負担等の説明は認められた。日頃からの意思疎通についても一定の評価はあるものの充分とまではいかない。育児に関する助言等も充分との領域には到達していない。保護者会の開催など保護者同士の連携は不十分。苦情の事例はない。

**D非常対応**

避難訓練は不十分評価。

**Eその他**

通所を楽しみにしている子が多い。保護者の評価も高め。

## 事業所内での分析

**【共通点】**

規程面積 68 m<sup>2</sup> の 2 倍の面積 138 m<sup>2</sup> を確保しているため、スペース面では良好な状況といえるが、階段の勾配がきついため、移動時の安全配慮が必要。

個別支援計画については、開設時に比して個別具体的な計画策定となっており、今後は更に個々の特性に照らした支援内容を盛り込んでいくことが重要。

他の子供たちとの交流機会が全く実現出来ていないが、親御さんとしては無理をする必要はない、というご意見もあり慎重に検討していきたい。

避難訓練等防災対策が不十分、更に訓練の回数を増やし、内容を充実していく必要がある。

勉強時間を増やしていくことへの期待がある、内容の拡大を含めて重要な目標であり、前進させたい。

**【相違点】**

保護者への相談・助言等双方向の情報伝達が事業所が思っているほどには、保護者に伝わっていない。

一方、子どもたちが、この事業所をどのように思っているかについては、以外に高い評価であった。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・階段など改善すべき部分は認められるがスペース、シャワー室、休憩室の設置など優れた施設を整えている。
- ・勉強時間への取り組み誘導が漸く確立してきた。更に増強していきたい。
- ・保育園の運営の経験から、事故防止を第一優先課題としているため、現在まで、大きなケガ等の事故は全く発生していない。
- ・働いている保護者の方のために、19時までのサービス提供時間としている。
- ・階下には同一法人の運営する学童保育、ま今後は慎重な検討を踏まえ、交流機会を企画していくことが可能。

### 事業所の改善点

- ・ストレス解消、体力向上を目的として、外出機会を増やしてはいるが内容が目的性に欠ける、今後は更に体力をつけるため、退屈させないためにも、よりバリエーションのある支援プログラムを段階的に拡充していく必要がある。
- ・職員が少ない状況にあるが、専門的なスキルを高めるため、様々な研修の受講や、他の事業所をはじめ関係機関との連携強化が急がれる。
- ・避難訓練等防災対策が不十分であり、早急な対策を施す必要がある。
- ・家庭連携など更に連携強化に努める。

### 事業所の改善への取り組み

- ・日常生活、学習、運動、戸外活動、他者との交流を通じたコミュニケーション能力の向上など、個性に見合った多様なプログラムを企画し、保護者と慎重に相談の上、順次具体化していく。
- ・非常時に備えた様々な訓練を早急に実施するとともに、災害備蓄品の充実が必要。  
なお、階下の学童保育所(六ッ川みどりアフタースクール)との共同での準備が効率的でもある。
- ・中学生には社会的な自立に向けて、学習、作業、会話術を活用したコミュニケーション能力の向上など、具体的な支援プログラムを提案する必要がある。
- ・新1年生には、まずは緊張を解きほぐし安心してくつろげる居住空間を提供することが重要。
- ・勉強への誘導はようやく効果を発揮しつつある、更に高めていきたい。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

ややもすると、見失いがちな支援方法や設備の見直し、職員のスキルアップ、保護者の同意を事由としたプログラムの革新性の欠如など、保護者のアンケートや職員による自己点検を通じて改めて客観性をもって見直す契機となった意義は大きい。